

私もいっしょに うたいたかった

歌劇「沖縄」全国公演始る

期待にたがわぬ熱演

歌劇「沖縄」が四月三日岐阜市民会館での上演を皮切りに、全国公演の幕を切っておとしました。安保隆彦・沖浦全編返還をめざす七(七)年の国民的なたたかいに、日本のうたごえ運動が二十周年の記念事業として創作にとりくみ完成させた歌劇をもって参加したことは、このたたかいに参加した人々ばかりでなく、国民の諸階層に大きな反響をもって迎えられるが、各地の上演実行委員会もいままでのうたごえのワクを大きくこえた人々を結集してとりくみ、着実な成功をおさめています。

岐阜公演を皮切りに

千三百名の参加で最初の公演を うごえから始まりました。成功させた岐阜の仲間たち、合唱 そのために「歌劇」沖縄への参加した地元・歌劇合唱団を「招待」の手引き書を書いていかにくめて、先陣にふさわしく、出演 読み合せ、伊江島の闘いの意義を者のみなが力いっぱい演奏しました。

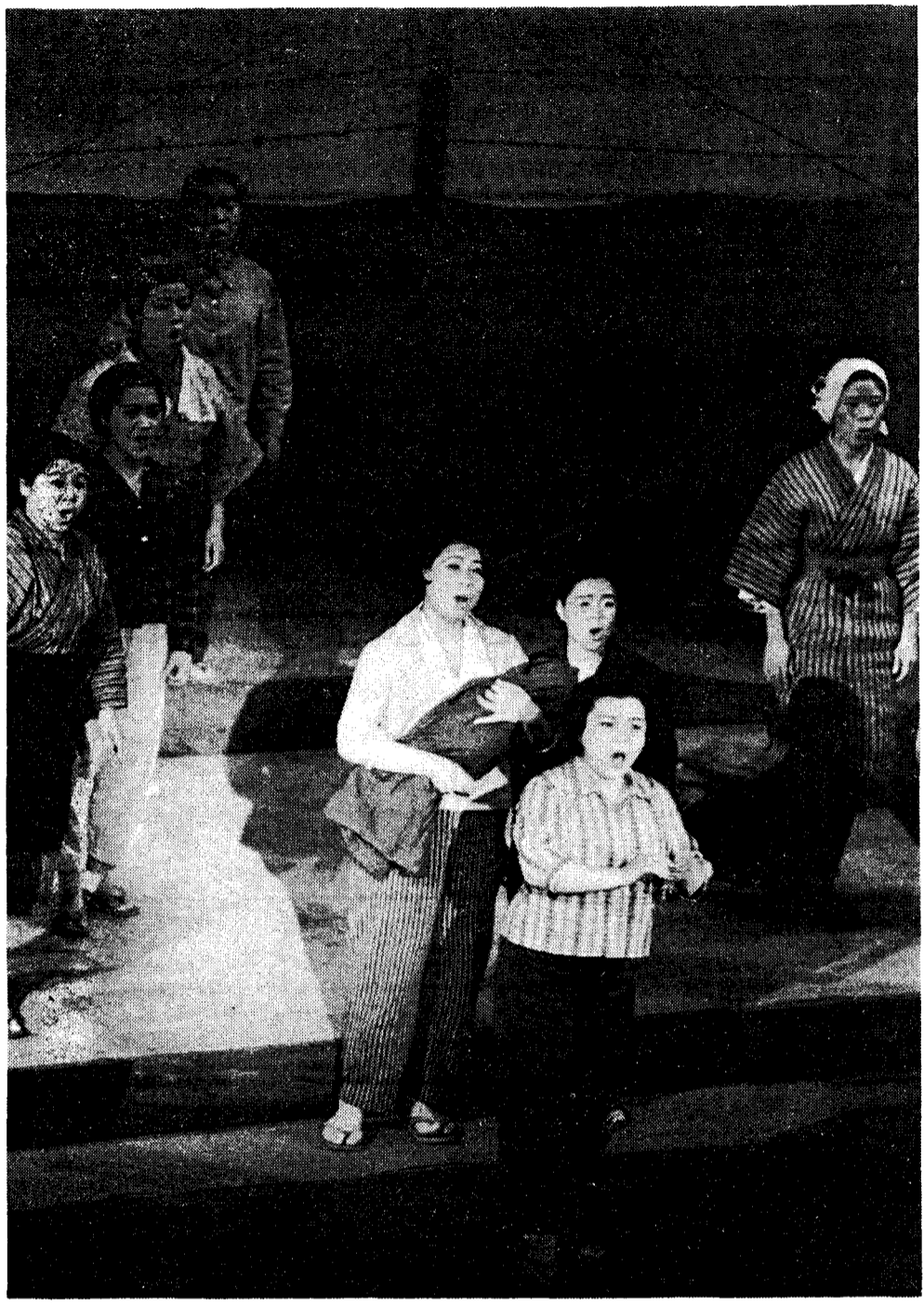
公演を成功させた組織活動については、まず初めに、歌劇というものを一度もみたことのない仲間たちが、この歌劇のイメージを自分たちのものにしていくか、といから違ひものではないこと、自信 スライド運用と、具体的な指導を

「上演活動は、今までのうたごえのワクをこえた、県下の諸階層の人々との共同の事業としてとりくみ、今後のうたごえ活動の典型をうみだすのだという方向で、やらされました。

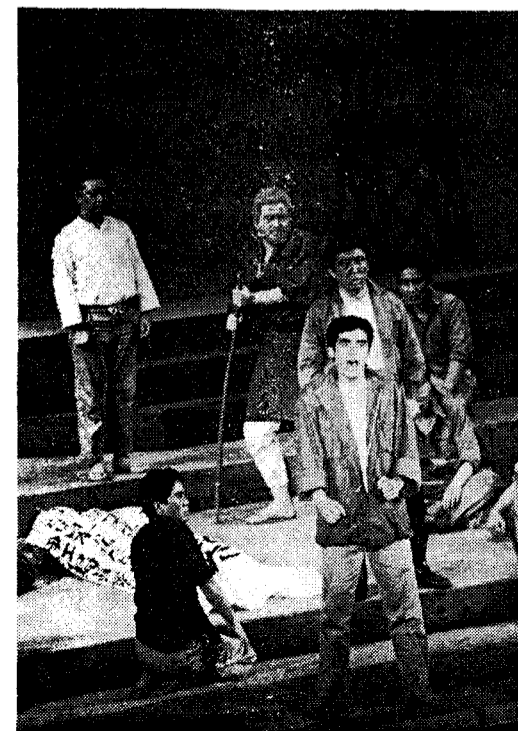
しかし、あくまでも組織活動の中心はうたごえ、特に幹部が先頭に立って、岐阜のうたごえ実行委員会が、手引きの読み合せ(18才、女、センイ)など、口々に感激をのべていました。

「上演活動は、今までのうたごえのワクをこえた、県下の諸階層の人々との共同の事業としてとりくみ、今後のうたごえ活動の典型をうみだすのだという方向で、やらされました。

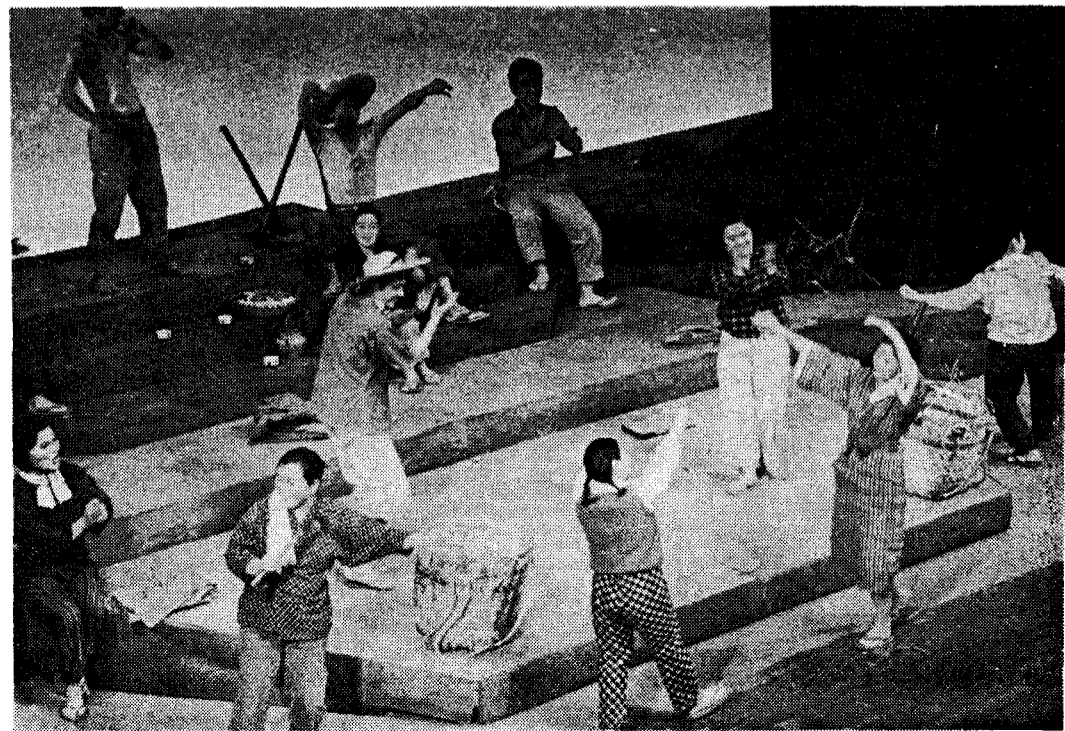
しかし、あくまでも組織活動の中心はうたごえ、特に幹部が先頭に立って、岐阜のうたごえ実行委員会が、手引きの読み合せ(18才、女、センイ)など、口々に感激をのべていました。



第一幕「暮舎生活」より、米軍に土地をうばわれた実情を那覇の町へ訴えに出かけようと、朝焼けの空に決意をうたうきよ子(里館良子)の aria、そのうしろ、赤ん坊をだしているふじ子(瀬野光子)ほか。
(写真はいずれも名古屋公演第二日目より)



第三幕「集団農耕」より、正確の死をなげく一夫(小村久仁夫)の aria。一夫のうしろ貞光(松尾篤典)村をうらむ盛輝(安部嘉伸)ほか。



序幕より、平和な真昼(まじや)部落のきて畑、仕事のおい(西村)はるカチャミのおい(西村)